

(トラック①)

(海音と娘が、圧倒的な質量を持つ男の股間にすり寄り、狂ったように奉仕している)

(海音:やや左:中)

ほら…あなた？

特等席でよく見えるかしら。

自分の妻と娘が、床に両膝をついて…

こんなあられもない姿で、

熱くて、太くて、脈打つ強いオスのチンポに、

涎まみれでしゃぶりついてるの…

下等な…

あなたを見下しながらね。

はあくなんておつきくて熱いの？

こんな最高にオス々しいモノ、

あなたの惨めなミミズとは

比べ物にならないわ。

見て？妻の私が、

こんなに発情したメスの顔で、

亀頭の裏まで、ぬめる舌で、

れろれろ、へろへろ…

(フェラ 5秒)

這いずり回って、ほら…

(フェラ 10秒)

(山田:やや右:中)

(熱に浮かされたねっとりとした声で、肉竿を頬にズリ付けながら)

そっだよ、パパ。

今、自分の娘が、

こんなお肉の匂いが充満する部屋で、

何させられてるかわかつてる？

こんな、肌に吸い付くような
薄い布切れ一枚の、

スケベな奴隷衣装を着せられて…

パパの目の前で、

この熱くてはち切れそうな

でっかいおちんちんを、

下から上まで、

ナメくナメくさせられてるんだよ？

(ちゅっ、れろお、じゅっ)

(フェラ 8秒)

ふふ…

私…まだ何も知らない処女なのに…

おまんこの使い方より先に、…

圧倒的なオスの象徴にへりくだって、…

粘膜の端々まで綺麗にする、

メスとしてのご奉仕の仕方を、

身体の奥底まで叩き込まれてるの…

(怒りを…たたきつけるような感じで)

全部、ちっぽけな嘔吐きだった、

パパのせいでね。

(海音:やや左:中)

そうよ…

あなた。

あなたのその見栄っ張りの粗チンのせいで、
私たち家族はみんな、

この世界で一番底辺の、

「再教育対象」になっちゃったの。

世間様を騙してた、
その貧相な肉の切れ端のせいよ？

(山田:やや右:中)

(娘:舌先でカリ首を転がすような粘着質な音を立てながら)
パパって本当に最低の汚物。

この世の中のオスはね、
ちんぽのサイズで全ての価値が決まるの。

おつきくて立派なら、絶対的な強者、
小さくて惨めなら、ただのゴミクズ。

そんなちっちゃいチンポじゃ、
結婚も、
子供を作ることも禁止されてるのに…

パパは、
そんなバイキンみたいなモノで、
ママの奥を汚して、
私を作ったんだよね。

ほんと、反吐が出る。

(じゅるる、ちゅぽっ、れろお)
(媚びるフェラ 8秒)

ああ、デカちんぽ様、
でっかくて熱い、
本物のおちんぽ、ぺろぺろ舐めてます。

パパのが使い物にならないゴミだから、
反省の証として、娘の私が、
この極上のデカちんぽ様に、ご奉仕して差し上げております〜

ほら、このはち切れそうな、
強くて重たい金玉、

汗ばんだ皮のシワまでナメナメして、

太くて硬い竿の裏側も、

じゅるじゅる、ナメナメ、

じゅるじゅる、ナメナメ〜

(フェラ 10秒)

(海音:やや左・中)

(海音:股間から溢れる愛液で太ももを濡らしながら、熱っぽい溜息をついて)

ほら、

あなた?よく見てなさい。

あなたのせいで、

私の愛する娘が、

デカちゃんぼ様の極太ちゃんぼに、

一生懸命ご奉仕させられてるのよ?

あなたのその

ちっちゃな粗チンが招いた罪を、

娘がその柔らかな唇で償ってるの。

大体、

私も馬鹿だったのよ。

こんなちっちゃい欠陥品の…

そちん旦那と結婚して…

あなたのお金だけを目当てに、

世間様に嘘をつき続けて、

サイズを偽装して生きてきたなんて…

でも、やっぱり

メスの本能には逆らえないわ？

この世界では…ちっちゃい粗チンなんて、
本当に何の価値もないただの肉片。

私だって本当は、

こーんなにオスの匂いがプンプンする
でっかいおちんぽに、

私のおまんこを、

ひだの奥の奥までズボズボ抉られて…

子宮のと真ん中に、

熱くて濃いお精子を

びゅーびゅー出されて、

極上の子種汁で

お腹の底から孕みたかったのよ。

(山田:やや右:中)

(娘喉の奥まで肉竿を咥え込む水音を響かせながら)

ほら、娘口まんこ…

ぺろぺろ、れろお、じゅるるっ。

(フェラ 5秒)

ねえパパ。

その目に焼き付けて、
しっかり反省して？

私たち家族は、

これからこのデカちゃんぽ様に、
体の芯まで再教育されるんだから。

そんなちっちゃいゴミちゃん使って
子作りしたパパのせいだ、

私たち二人は人権のないメス豚として、
このデカちゃんぼ様だけの
オナホール奴隷になるの。

パパのせいで…

パパの粗チンが

こんなにでつかくて

立派じゃなかったせいで…

私たち、これから毎日、

狂うまで犯し尽くされちゃうんだよ？

（ちゅぽっ、じゅるる、んちゅ）

（フェラ 5秒）

ほら、ああ、

デカちゃんぼ様の熱が…

口の中に広がって、

ドスケベな舌を絡ませて、

スケベにぺろぺろ…

おちんぼ、すごく硬くて

気持ちいい。

でかちゃんぼ…

好き♡♡

ああゝ

ナメナメ、

ズリズリ、ナメナメ、ズリズリ。

（フェラ 10秒）

（海音:やや左:中）

（海音夫の哀れな姿を嘲笑いながら、手と口で激しく奉仕を続けて）

ほら、あなた。

そんなふうに突っ立ってないで…

さっさとその貧相なモノを取り出して、
自分でシゴきなさいよ。

自分の妻と娘が、
こんな立派なデカちゃんぽ様に
メスの顔で交尾をおねだりして…

ナメナメ奉仕して、
ドスケベな手コキで、
皮をズリズリ剥いてるのを
特等席で見せつけられながら…

その惨めな粗チンでオナニーしなさい？

もう気づいてるわよね？

この極上のオス……私の元カレよ？

昔…どっちと結婚しようか迷って、
お金に目が眩んであなたを
選んだばかりに…

ずっとこの

極太ちゃんぽを我慢してたの。

だから、
あなたのサイズ詐欺称罪の罰として、
デカちゃんぽ様が私たちに、
たっぷりお仕置きをしてくださるの。

(じゅぷ、じゅるるっ、んっ)

ほーら、

人妻口まんこ…

ずーり、ずーり

(フェラ 5秒)

どう？屈辱でしょ？

情けなくて涙が出るでしょ？

でもね…

あなたみたいな底辺の粗チンは、
こうやって

メスたちの踏み台にされるのが、
お似合いなのよ？

ほら、

シコリなさい。

ほら、早くシコれ！

しこれ！

しこれ！

あんたがシコらないと、

私たち二人のメス穴は、

この極太ちんぼ様に

壊れるまで犯し尽くされるんだから、

その情けない粗チンを突き出して、

無様に腰を振って、

カニみたいに丸まりながら、

惨めな反省オナニーを始めなさい！

この、サイズ詐称のゴミ野郎。

(山田:やや右:中)

(娘冷ややかな蔑視と、巨根への発情が入り混じった湿った声で)

ふふっ、パパったら、

本当にチンチンシコってる♡

シコシコ、シコシコ、

情けない音立ててオナニーしてるのに…

ちっちゃいちんぼのまんま♡♡

デカちゃんぼ様は、
こんなに立派で、

血管がドクドク脈打ってるのに、

こっちはただのシワシワの粗チン。

私たち二人が、
本物のオスに

交尾をおねだりしてるのをオカズにして、

ズリズリ、ズリズリ、
情けないチンコキして、本当に気持ち悪い、

あんなちっちゃくて
不潔なバイキンから生まれてきたなんて思うと、
もう…全身を消毒したいくらい、

やっぱり男の人は、
こちらのデカちゃんぼ様みたいに、
熱くて硬くておっきいおちんぼじゃないと、
意味がないの、

(ちゅるっ、れろお、じゅぷ)

ほら、

デカちゃんぼ様？

私のスケベな舌で、ナメナメご奉仕して、
ズリズリ、ズリズリ、ズリズリ。

(フェラ 10秒)

(海音:やや左:中)

(海音:呼吸を荒くし、奉仕のピッチを上げながら)
ほら、あなた、
情けないわね？
惨めよね？

でも、これは全部、
あなたがサイズを偽って生きてきた
罰なのよ？

そんなちっちゃいゴミのくせに、
偉そうに家族ごっこをした、
あんたの粗チンが全部悪いの。

本当のメスはね、
オスの極太のおちんぼで、
子宮をガンガン突かれないと
満たされないのよ？

自分を偽って、
あんたの汚い粗チンの種なんかで孕んだ
私が間違ってたわ。

だからほら、
私たちの罪を清めるために、
娘まで巻き込んで、
ドロドロになるまで再教育されちゃうの。

あはは♡
マジで傑作よね！

(じゅっちゅ、ずっちゅ、じゅっちゅ)
(フェラ 5秒)

ほら、粗チン、
シコシコ、ずりずり
シコシコ、ずりずり……

(山田:やや右:中)
(娘:高ぶる興奮を隠しきれず、甘くねっとりとした嬌声を上げて)
ああ♡
パパったら本当に情けない！

こんな恥ずかしい

罵倒を浴びながらちんぼシコって、

もう先っぽから、

透明な負け汁をダラダラ垂らして、
イキそうになってるじゃない。

自分の家族が、

本物のオスのオナホ奴隷に
されてるっていうのに、

屈辱を感じながら、惨めに発情して、
オナニーして射精するなんて、
本当にダサい。

(ちゅるる、じゅぽっ、んっ)

ほら、

デカちんぼ様く

こーんなにでっかいおちんぼ様く

たっぷりナメナメご奉仕してく
パンパンに膨らんでるから、

熱くて濃いお精子を、

びゅく、びゅくって、

ママと私の顔面に

思い切り叩きつけてもらうように
お願いしてるの。

ほら、パパも、

その惨めな粗チンで、
一緒にイクんだよ！

（海音：やや左・中）

（海音発情しきったメスの顔で、男の股間にズリ寄りながら）
ほら、デカちゃんぽ様？

ドスケベ親子二人の
ナメナメ激しゃぶりご奉仕で、
もう限界でしょ？

お願い、熱いザーメン、
たっぷり頂戴？

私たち親子のちっちゃい顔が
見えなくなるくらい、
この極太ちゃんぽから、
溢れんばかりの特濃のザーメンを、
どっぴゅどっぴゅ♡♡

しっかりひねり出して…

親子共々、
オスの匂いのするザーメンで、
メスとして躑けてください。

ほら、おちんぼ様、
スケベに媚びたメスの表情しながら、
れろれろ、ちゆるちゆるして、
ご褒美のザーメン、待ってますからあ。

（激しいフェラ 5秒）

（山田：やや右・中）

（娘男の絶頂の気配を察知し、狂喜に満ちた声で）

あっ、ほらパパ見て！
でっかいおちんぼが、
ビクンビクンって脈打って、出る、出る、出る！

デカちゃんば様から、

本物のオスのザーメンぶっぱなされる！

私たち親子の顔を、

おちんぽから出る熱い白濁液で

ドロドロに汚してもらうの！

ほら、

パパもガクガク震えながら、

私たちが

極上のザーメンで汚されてるところ、

瞬きしないで見ながら、

その情けない粗チンを、

しごいて…

出せ、出せ！

出せ、出せ、出せ、出せ！

(ギミギミ)連呼フェラ 10秒)

(海音:やや左:中)

(海音:狂乱したように叫んで)

ほら、イケ！

最低の雑魚男！

(山田:やや右:中)

(娘:汚物を見るような声色で)

パパなんて、だあい嫌い！

そんなちっちゃい粗チンで私を作った罪、

底辺の惨めな射精で、

反省しなよ！

ほら出せ！出せ！出せ！

（海音：やや左・中）

（海音：絶叫に近い歓喜の声で）
ほらあなた、イケえっ！

（山田：やや右・中）

（娘：甘く蕩けた声で）
ほらパパ、イツちゃえ！

（ト書き：重々しく大量の粘着質な液体が噴き出す音）

（海音：やや左・中）

（海音：顔に張り付く精液を舌で舐めとりながら、恍惚とした声で）

あぁっ、ドピュ、ドピュ、ドピュって、

熱いのがいっくぱい♡

顔面に、

濃いザーメン叩きつけられて、

あぁ、凄く生臭くて、オスの匂い。

ほら見て、

あなた？

妻の私の顔面、

デカちゃんぽ様のお精子で、

ドロドロに汚されちゃってるわよ？

（山田：やや右・中）

（娘：まつ毛に絡みつく精液を瞬きで散らしながら、ねっとり笑って）

んっ、あはっ♡

私の顔も、

でっかいおちんぽから出た

大量のザーメンで真っ白に汚されちゃって、

メスの匂いになっちゃった！

あはは、情けないねー。

（ゆっくり読んで馬鹿にする感じで）
で……何それ。

パパのそれ……精子？

こんなに大量の極上ザーメンを
目の前で見せつけられたのに…

パパの粗チンからは、
水みたいなザーメンが一滴、
ぽたりって出ただけ？

ほんとに最低……バイキン以下……

（海音：やや左・中）

（海音夫の哀れな姿を鼻で笑い、髪から滴る精液を拭いながら）

こーら♡

優愛（ゆあ）、
ダメよ？そんなこと言っちゃ。

この雑魚オスはね、
昔から精子がほとんど作れない、
役立たずの不能ちゃんぼなんだから。

だって、

よく考えて……らんないよ。

こんなちっちゃい
シワシワの粗チンで作れる精子の量なんて、
あの水滴一粒が限界なのよ？

優愛を孕ませられただけでも
奇跡みたいな確率だったんだから…

あははっ、

本当に惨めで最低な生き物。

（山田：やや右・中）

（娘顔に塗られた精液を指で掬い、うっとり舐めながら）
あゝあ

あんなちっちゃいチンチンで、
ゴミみたいな薄い精子しか出せない汚物から
私が生まれてきたなんて、
マジで、吐き気がして死にそう。

あーあ、ママのこと、
パパの雑魚粗チンなんかじゃなくて、
このデカちゃんぽ様が
種付けしてくれてたらなあ、

私……今頃すっごく幸せだったのに。

（海音：やや左・中）

（海音立ち上がり、股間から愛液を滴らせながら、夫を見下ろして）

じゃあ、あなた、

これから私たち家族はみんな、

この極上のデカちゃんぽ様に、

骨の髄まで、メスとして再教育されちゃうけど、

あなたも、底辺のザコオスとして、
しっかり教育されなきゃダメよ？

全部、あなたのその粗チンが
ちっちゃいせいで、

こうやって…再教育されるんだからね？

（山田：やや右・中）

（娘：新しい支配者の腕にすり寄り、熱っぽい吐息を吐きながら）

そうだよ。パパ。

パパのちんぽがちっちゃいせいで、

ママと私、二人とも、

デカちんぽ様の専用のメスとして、

再教育をたっぷり受けさせられるんだから。

そのちっちゃい粗チン握りしめて、

一生反省してよね？

やっぱり、男の人は……

うふふ♡♡♡

おちんぽが、強くて、おっきくないと、

絶対ダメなんだからね。

ふふっ、

あはははっ。

ぎ~~~~~♡

ぎ~~~~~♡

ぎ~~~~~♡

ぎ~~~~~♡

（トラック②）

（ト書き：ぴしゃっ、と冷たい金属製のメジャーが肌を弾く音）

（海音：蔑むような冷たい声色に、微かな熱を帯びた吐息を混ぜて）

（海音：やや右・近）

ああ、何度測っても、たったの5.5センチ…

昔よりさらに縮んで…

シワシワの梅干しみたいになって、
本当にみっともないわね。

ご主人様からの命令で、
定期的にあんたの粗チンの
サイズチェックをさせられてるけど、

こんな、指先でつまむのも躊躇うような
ちっちゃいゴミを見せられると、
こっちまで惨めな気分になってくるわ。

こんな、オスとしての価値が微塵もない
欠陥品と結婚してたなんて、
私の人生最大の汚点ね。

(ト書き:。パパが屈辱に身をよじり、僅かに反抗するような衣擦れの音)

(海音:ヒールの先で踏みつけるように、ドスを効かせた低い声で)

ん？なに？今の態度。

私に逆らうつもり？

逆らえるわけないわよねえ？

(海音:左・密着)

あんたのその『粗チン偽装罪』のせいで、
家族全員が教育対象に落とされたのよ？

しかも、特権階級のオスに奉仕する

私や優愛(ゆあ)と違って、

あんたはさらにその下、

虫けら以下の『底辺教育対象』なんだから。

私たちご主人様の所有物に

歯向かっていい立場じゃないのよ？

少しでも機嫌を損ねたら、
あんたは即刻収容所送り。

私と優愛は、

一生便器として這いつくばって
生きなきゃいけないんだから。

脳みそまで縮んだそのちっちゃい頭でも、
そのくらいの絶対的な格差は、
理解できるわよね？

（山田：やや右・近）

（娘・無邪気な残酷さを滲ませて、覗き込むように顔を近づけながら）

ほら、パパ、（こちゃこちゃ）言っ
てないで、
ちゃんと腰突き出してよ。

この惨めで、赤ちゃんの小指みたいな
ちっちゃい粗チンの大きき、
私にも、しーっかり測らせて？

ん~~~~？

もう…：パパったら、
ちゃんと…：ちんちんおつきくしないと
測れないじゃん。

早くそのシワシワの皮伸ばして、
大きくさせてよ。

こんな貧相な突起でも、
一応勃起すれば、
もうちょっとマシンな形になるんでしょ？

ほら、

ちゃんと勃起させてよ、ねえ。

(海音:やや左・近)

(海音:鼻で笑いながら、呆れたような湿った溜息をついて)

ふふっ、優愛、ごめんなさいね…

実はこの粗チン、

これでもう、

いっちょ前に勃起してるのよ。

この、

みっともなく縮こまった5.5センチが、

この人の、

マックスサイズの、フル勃起なの。

今まで、優愛に嘘ついてて…

本当にごめんね。

(山田:やや右・近)

(娘:心底軽蔑したような冷たい声で、汚物を見るように)

ええっ！？嘘でしょ？

これで勃起してるの！？

5.3センチって、

昨日私がいっぱいナメナメした、

デカちゃんぼ様のご立派なおちんぼの

3分の1もないじゃない！

こんなお粗末なモノで

よく大人の男の顔して生きてこられたね。

男の人はね、太くて、硬くて、
20センチあって、

やっと一人前として認められるの、

10センチですら

惨めで外も歩けない恥ずかしいサイズなのに、
パパのは、そのさらに半分って。

マジで、

バイキンより惨めすぎ〜

こんな、

種付けの能力もない粗チンのくせに、
家族を持つとしたなんて、

本当に、身の程知らずのクズなんだから。

（海音：やや左・近）

（海音夫の反応を面白がるように、ねっとりとした声で囁きかけて）

そうよ、しかもこの粗チンね、

ちょっと情けない癖まであって。

優愛にそうやって、

ゴミみたいに馬鹿にされると、

ほら、見てごらんなきい？

ピク、ピク、ビクビクって、

微かに震えて、

先っぽから透明な汁を出して、

興奮してるのがわかるでしょ？

自分の実の娘に、

ちっちゃい粗チンを鼻で笑われて、

冷たく見下されて、それで発情しちゃう、

救いようのないド変態なのよ。

ことういう、

踏みつけられることに悦びを感じる、

オス未満の生物をね、

マゾ……っていうのよ？

(山田:やや右・近)

(娘:信じられないものを見るように、嫌悪感たつぷりに)

はあ？なにそれ。

パパ、マゾなの？

(山田:右・密着)

こなな、

豆粒みたいにちっちゃいくせに、

娘に罵倒されて、見下されて、蔑まれて、

それで先走りを垂れ流すのが

気持ちいいの？

ますます…キモいじゃん！

ちんちんちっちゃい上に、

性癖まで腐りきってるなんて、

本当に生きてる価値ないね。

こんなちっちゃいゴシ、

ほら。

この、シワシワでちっちゃいタマも、

爪の先でぎゅーってつまみ上げて、

一生縮み上がるくらい、

反省させてやるんだから、

ちんちんちっちゃいくせに、

大人のオスのふりなんか、

二度としないでよね、パパ。

ほら、ほら、

きゅっきゅっ

ねえ？

痛いの？気持ちいいの？

（海音：やや左：近）

（海音：夫の情けない反応をクスクスと笑いながら）

ああ、あなた、

本当に気持ち悪いわね。

5.3センチの粗チンが、

娘に馬鹿にされて、金玉を爪で潰されて、
それで、5.4センチに育っちゃったわよ？

ふふっ、

それでも全然ちっちゃいっていうか…

ただの誤差の範囲でしかない膨張率だけど…

あなたのその貧弱な「そちん」にとっては、

0.1センチでも、

涙ぐましい努力の結晶よね。

ほら、

実の娘にサイズを測られて、
痛めつけられて発情してる
惨めなマゾちゃんぽ、

後でご主人様に、

たーっぷり報告して差し上げるから、
さあ、次の教育に入るわよ。

ほら、これを見て？

(ト書き:ガサゴソと箱を探る音)

(山田:やや右・中)

(娘:興味津々に、少し湿り気を帯びた声で)
なに? ママこれ、オナホ?

(海音:やや左・中)

(海音:一つずつ取り出しながら、ねちっこく説明する)

そうよ、ちっちゃい順から、

1、2、3って、3つ並んでるでしょ、

一つは、

すっこく特大サイズのオナホ。

デカちゃんぼ様の規格外のデカちゃんぼには
ちよつと足りないかもしれないけど…

大体の男の人のちんちんなら、
すっぽり飲み込めそうなすごいサイズ。

次のやつは、中くらいで、
普通のおちゃんぼの人が、

一番気持ちよくなりそうな、
標準的なサイズね。

それで、最後は……。

(山田:やや右・中)

なにこれ?

私の小指の第二関節くらいの
長さしかないじゃん。

こんなにちっちゃい穴で、

おちんちん、

ゴシゴシできる人なんているの?

（海音：やや左・中）

（海音：夫の顔を覗き込み、残酷な笑みを浮かべて）

これはね…パパみたいなの…

ちっちゃいおちんちん専用のオナホなのよ？

おちんちんの発達が止まっちゃって、

大人になっても、

お肉が育たなかった人専用の、

情けない、おちんちば障害者用の介護器具よ。

（ト書き：ぶにつ、と極小オナホをパパの鼻先に押し付ける音）

（海音：やや左・近）

（海音：命令するように、冷たく低く）

ほら、あなた、言われなくても、

自分の惨めな立場、

わかってるわよね？

今から、この小指サイズの穴で、

オナニーしない。

ちゃんと、

精子を絞り出せるくらいまで、

自分でその粗チンをゴシゴシ擦って育てて…

まともに射精できる機能が

残ってるかどうか、

私たち二人の目の前で、

しっかり証明して見せないかい。

（山田：やや右・近）

（娘：吹き出すのを堪えるような、湿った嘲笑交じりに）

えーっ、あははっ♡♡

パパって、

このサイズでオナニーするの？

こんな、おもちゃの指輪みたいな穴で？

恥ずかしくて、

おちんちんの出し入れなんて、

普通絶対できないようなサイズのオナホで、

おちんちん、

ズリズリして、

オナニーしちゃうの？

そんなのって、惨めすぎて、

うひひひい♡

見てるこっちが、

恥ずかしくなっちゃう、

(海音:やや左・近)

(海音苛立ちを交えて、プレッシャーをかけるように)

ほら、

あなた、さっさと見せてちょうだい。

早くしないと、命令違反で、

ご主人様に報告しちゃうわよ？

あんたが粗相をしたら、その連帯責任で、

私のこのおまんこが、

デカちゃんぼ様の極太で、

壊れるまで罰を受けちゃうんだから。

嫌でしょ？

自分の愛する妻が、

デカちゃんぼに奥の奥まで反省させられちゃうの。

それが嫌だったら、
早くその惨めな

ミニマムサイズのオナホを被せて、
指先で、ゴシゴシしなさいよ！

ほら、シコレ！

ほら、シコレ！

早くシコレ！

（ト書き：パパが震える手で極小オナホで滑りの悪い情けない水音が微かに響く）

（山田：やや右・近）

（娘：手を叩いて喜びながら、意地悪くねっとりと）

あははっ♡

パパったら本当に！

ちっちゃい粗チンを

指先でつまみ上げて！

ちっちゃいオナホで、

ちゅぷっ、ズリズリ、

ゴシゴシーっしてる！

人差し指と親指だけでシコレちゃうようなく

奇跡のミニマムちゃんぽ、

一生懸命ゴシゴシして、

ああっ！

しかもなにそれ！

もしかしなくても、

私のこと…オカズにしてオナニーしてる？

自分の娘のおっぱい見て、

発情してシコレっ、

パパって変態で、マゾで、ロリコンで、その上どうしようもない性犯罪者なの？

(海音:やや左・近)

(海音夫の歪んだ性癖を解説するように、ねちっこく)

ダメよ優愛、本当のこと言っちゃ。
でもね、ちよっと違うのよね。

パパは、娘のおっぱいで
興奮してるんじゃないくて…

この徹底的に見下されてる
シチュエーションのせいで、
異様に発情してるのよ。

自分の妻と娘にオナニーを強要されて、
一番ちっちゃい介護用オナホで
粗チンをズリズリ、ゴシゴシさせられて、

それで、
頭の中が真っ白になるくらい大興奮してる…
救いようのないド変態なの。

ほら、
そんなペラペラの雑魚ちゃんばだから、
優愛がちよっとキツく言葉責めしてあげたら…

すぐにイク寸前まで、
追い込まれちゃうんだから…

ほら、
極上のご褒美、
「射精命令」命令してあげなさい？

(山田:やや右・近)

(娘胸元をはだける衣擦れ甘く、ねっとりとした毒を吐くように)
てか…
うわぁ…

娘に命令されるの…

嬉しくなって反応して…

オナニーが速くなってるじゃん

パパって本当に最低のDM…

娘に射精しろって命令されて、

それで粗チンをゴシゴシして出したいんだく

こんなちっちゃいゴミのくせに、

すぐイッちゃう早漏で、

マゾ性癖なんて、

本当に、息をしてるだけで

公害レベルで恥ずかしいね。

ほら、パパ、特別に、

私のおっぱい見せてあげるから、

早く、

その哀れな汁を出しなよ。

昨日もデカちゃんぽ様に

いーっぱい苛められて、

両方の乳首に冷たいピアスをつけられてく

すっかりマゾ奴隷に

されちゃった娘の

このスケベなおっぱいで、

早く、その粗チン、

ズリズリって、

シコっちゃいなよ！

ほら出せーほら出せーほら出せー！

早く、無様にイッちゃえ！

(海音:やや左:近)

(海音夫の極限状態を見て、とどめを刺すように冷酷に)

ふふふっ、ほらあなた。

ちゃんと娘に

無様な射精を見せてあげましようね？

そのオナホから、

ザコちんぽ…

すぽっ…って抜いて…

ほら、

あなたの専用のこの犬のお皿に、
精子を出させてあげるわ。

あなたは、

家族の中でも最下層の、
家畜以下のドスだから…

私たち二人と一緒に

テーブルで食事をとることなんて、
一生禁止されてるの。

いつもこの汚いお皿に、

残飯をぶちまけられて、

床に這いつくばって、

犬みたいに舐めとってご飯食べてるもんね？

その自分のお皿に、

あなたのゴミみたいなザーメンを

ひねり出させてあげるから…

ほら、しっかり娘に、

射精する瞬間を見てもらいたいかい？

ほら、

妻である私が、

あなたのその熱を持った粗チン、
人差し指と親指の先だけで、
きゅっ、とつまみ上げて…

お皿の上で直接、

ずりゅっ、ずりゅっで、

ゴシゴシしてあげる。

ほら、出ちゃえ、

ほら、みつともなく出ちゃえ！

(きゅっきゅっ、ずりゅっ！と妻の爪が食い込む…パパの荒い呼吸が限界に達する)

(山田:やや右・近)

(娘汚物を見るような声色に、サディスティックな歓喜を混ぜて)
えーっ、

パパ、本当にイクの？

こんな、

指先で弾かれるだけの手コキで、
ザーメン漏らして、
情けなくて、恥ずかしくて……

本当に……死んだほうがマシだよ。

人として、父親として、
絶対やっちゃいけないことやって、
それで出ちゃうの？

ああ、出しちゃう、
出しちゃう、出しちゃうっ！

ほーら

だ~~~~~せ。ぎ~~~~~(♡♡♡♡

わゝゝ

出た、出た出た！

しかも…なにそれ…

たらっ、たらっ、って…

水みたいな薄いのが、

一滴、二滴、垂れただけ…

そんなおしつこの

残りがすみたいなので、

本当に…射精って言えるの？

（海音：左・密着）

（海音犬の皿に落ちた精液を冷たく見下ろし、吐き捨てるように）

ほら、愛する娘に、

じっくり見られてるわよ？

あなたのその、

絶望的なほど雑魚い精子製造能力。

こんな、水滴みたいな

ゴミザーメンしかひねり出せない、

生物学的な欠陥品だってこと、

娘の目の前で見せつけて、

恥ずかしくて、情けなくて、

生きてるのが辛いよね？

でもね、

今からあなたには、

こうやって一生、現実を叩き込んでいくの。

デカちゃんば様のご立派なおちゃんばは、

太くて長くて、生命力に溢れてて、

あなたのその粗チンは

ミジンコみたいになっちゃくて、
使い道のない情けないゴミ。

ただサイズがちっちゃいってだけで、
こんなにもオスとしての
絶对的なヒエラルキーに
違いがあるんだってこと、

骨の髄まで見せつけられて、
本当に、惨めで情けないわね。

でもこういう

徹底的に踏みにじられるのが
一番気持ちいいんでしょう？あなた。

ふふっ、また明日も、たっぷり、
濃密な再教育をしてあげるから、
首を洗って、待ってなさいよね。

(トラック③)

(ト書き:スマホのスピーカーから水音と肉のぶつかる音が響き渡る)

(海音:左・近)

(海音:スマホの画面を夫の顔に押し付け、熱っぽい、蕩けた声で)

ほーほーら

あなた…

よく見えるでしょ？

私とご主人様が、ベッドでドロドロになって、
激しく交尾してる動画。

あなたの目の前で…

自分の妻が寝取られてる映像を…
スマホの画面に映し出されてるのを見せつけられて…

頭がおかしくなっちゃいそうよね。

でも…

あなたのその、

短くてシワシワの情けない粗チンは…
冷たい金属の貞操帯をつけられて、
ピクンピクンって
惨めに痙攣してるだけなのにね…

私とご主人様はね、

さっきまで熱い生ちんぽと生おまんこで、
ひだの奥の奥まで、
ズボズボ、ぐちゃぐちゃに
セックスしてたのよ？

あなたみたいな

使い物にならないゴミじゃなくて、
腰の骨が碎けるくらい、
太くてでっかい本物のオスの杭で、
子宮の口をガンガン抉られて…

とーても、気持ちよかった♡

(思い出して発情しながら)

ふふっ…最後はね、もちろん…

ドクドク脈打つ極太ちんぽから、
特濃のザーメンを、お腹のと真ん中に、
ピューピュー、どっぴゅどっぴゅ、
中出しされたの。

元カレのご主人様に、

太い腕で首をギュって絞められながら、

『お前、オナホのくせに、昔…俺を振ったよな』
って怒られて…

激しいお仕置きで、

ドコのメス豚みたいに扱われて、

私のおまんこ、オスの匂いで

いーっぱい汚されちゃったの。

ふふっ、すっごく奥まで突かれて、

とーっても気持ちよくて、

またお股が、熱くなっちゃったわ。

(海音冷たいヒールの爪先で、夫の拘束された股間を小突くように)

あらあら♡

ちんぽ痛いの？

そんなちっちゃいゴミのくせに、

ガッチガチに充血して勃起して、

硬い貞操帯にギチギチに締め付けられながら…

触ることもできないもどかしさで、

脳みそが焼き切れるくらい悔しい思いして…

それで、こんなにビクビク

興奮しちゃってるんだ。

自分の妻が犯されてるのを見て

発情するなんて、

本当に『マゾ』って情けない生き物ね。

(やや左・近)

ほら、そんなに無様に痙攣してるなら、

次はこの雑魚ちんぽを、

（海音：左・密着）

私の足で、ほら〜

ふみふみ〜ぐり〜ぐり〜踏み躪ってあげるわ

（海音：嗜虐的な笑みを浮かべ、見下すようなドスの声で）

貞操帯のせいで

まともに勃起すらできないくせに、

自分の奥さんが、

他の男の極太ちんぽにひれ伏した直後に、

その精液まみれの足で、

ちっちゃいちんぽ踏みつけられて、

お仕置きされちゃってるの、

本当に、涙が出るくらい情けないわね。

ねえ、

なんであなたが、

そんな惨めな貞操帯つけられてるか、

その口で、言ってみなさいよ。

（海音：ヒールの先で金玉のあたりをグリグリと挟るように）

（海音：左・近）

うふふ……

言えないの？

そうよね。あなた、

こんなチンチンちっちゃいマゾ変態のくせに、

最近はいっちょ前に、

寝取られ性癖までこじらせちゃって、

私にご主人様の

極上オナホ奴隷にさせられてる時に、

その様子をこっそり見ながら、

勝手に粗チンシコリまくって、

惨めなゴミ精子を、

ピューピュー、ピューピュー

出しまくっちゃったんだもんね。

ご主人様にバレて、

本気でキレられて、

ボコボコにされて、

全裸で土下座させられた挙句の果てに…

この冷たい貞操帯つけられて、

大好きなオナニーすら

まともに…できなくなっちゃったんだもんね。

(ふふっ、と冷笑して、さらに強く踏み込む)

ほら、こんな惨めでちっちゃい粗チン、

ヒールの先で

たらくさん踏んで反省させてあげるから…

しつかり、懺悔なさい！

勝手にご主人様と私の

神聖な交尾をオカズにオナニーするなんて、

絶対にダメでしょ！

(海音:左・密着)

この変態マゾちゃんぽ。

ほら、ぐぐりっ、

ぐぐりっ、ぐぐりっ、ほら。

(ト書き:ギューっ！と金属が軋む音。パパの苦悶のうめき声が漏れる)

(海音:汚物を踏みつけるように、吐き捨てながら)

その、シワシワでちっちゃい金玉も、

靴の裏でふみふみ、ぐりぐり潰して、

しっかり反省させてあげるから、
もっと、

もっと惨めな顔しなさいよ、

ほら、ほら！

このクソ雑魚。

（海音：左・近）

（海音：冷ややかな蔑視と、メスとしての優越感を滲ませて）

あゝあ…

このちんぽ…

金属の中でピクピク痙攣して、
本当に気持ち悪い。

ご主人様の太くて生命力に溢れた
大きなちんぽはね、

こんなに私をドロドロにイかせた後でも、

すぐにまた硬く元気になって、

私のおまんこを、

奥まで突き上げて反省させてくれるのに、

あんたのこのちっちゃい欠陥ちんぽは、

惨めに私の足に踏まれて、

床と私のヒールの間に潰されて、

ピクピク痙攣して

汁を垂らすことしかできない、

ただのマゾゴミちんぽ。

ほら、ほら、ほら。

何？

もう先走り汁出しちゃいそうなの？

こんな風に金属でちんぽ拘束されて、
妻の足でゴミみたいに踏みつけられて、
徹底的に馬鹿にされてるだけなのに…
射精しちゃうの？

本当に、

細胞の隅々まで情けなくて惨めね。

でも、この惨めなちんぽ、

すぐには楽にイかせてあげないわよ？

(中・近)

ほら、ご主人様から『これ』、

預かってきたの。何だかわかる？

(海音器具の先端を指で弾き、金属特有の高い音を鳴らす)

そうよ？

ちっちゃいボコボコの凹凸がたくさんついてる、

細ーい金属の管。

これ、何に使うかわかる？

ふふっ、

わからなくていいのよ、

あなたはおちんぽもちっちゃければ、

脳みそもミジンコみたいに

ちっちゃいんだから、

ただ、私にされるがまま、

壊れていればいいの。

ほら、

この、貞操帯の中でピクピク痙攣して、
勃起すらまともにできない
粗チンの先っぽだけ、

おしっこの穴が開いてる隙間から、
ほら、ぬる、にゆるるっ、て、
ゆっくり、ゆっくり、この冷たい管を、
挿入……してあげるからね♡

（海音夫の顔を覗き込み、苦痛に歪む表情を楽しみながら）
ほら、ずぶずぶ、ずぶうっ。
ふふっ、ちんぽ……中が熱い？

内側から押し広げられて、
きつくて痛い？

そう、
自分が今、何されてるか、
しっかり頭に刻み込みなさい？

ちんぽの細い管に、
自分の奥さんに
凹凸のある卑猥な器具をねじ込まれて、

粘膜を削られるみたいに、
ゴシゴシ尿道責めされちゃうんだよ？

ちんぽは金属で拘束されて
ちっちゃいまんなのに、
おしっこの穴の中だけを、
ゴシゴシ、ズリズリされて、
最高に惨めな方法で、反省させられちゃうの、

（ト書き:ぎちちっ、ずぶうっ！と、管が前立腺のあたりまで深く挟り込む）

（海音サディスティックな歓喜に満ちた声で）

あなたみたいな、
ちんぽちっちゃいパイパイには、
こうやっておしっこの穴を責められて、

メスみたいに惨めに虐められちゃうのが、
本当にお似合いよね。

ほら、

いくら痛くて

ちんぽ振って逃げようとしても無駄よ。

ほら、どんどん、どんどん

どんどん奥まで入っていく。

ほら、男のくせに、

無理やり異物を入れられて、

小さい穴を犯されてる気持ちはどう？

しっかり味わいなさいよ。

(ずちゅんっーという深い水音)

(海音・夫の絶叫を子守唄のように聞きながら、ねっとり笑って)

ほら、

根元まで、

全部入っちゃった、

あははっ、

ちっちゃいちんぽの奥深くに、

冷たくて硬い卑猥な器具が入れられて、

ほら…息もできないくらい苦しい？

おしっこが…

今すぐにも

漏らしちゃいそうな気分になって…

ちんぽがピクピク痙攣して、

内臓を引っ搔かれるような
異物感がすごいでしょ？

(中・密着)

じゃあ、抜いてあげるよ、

ほら、3〜〜2〜〜1〜〜♡

(ト書き:ずりゆるるっ！と管をゆっくり引き抜く粘着音)

ああっ

ずりゆ、ずりゆずりゆ、って…

凹凸が粘膜に引っかかりながら、
とんどん、とんどんゆっくり出ていってるね。

(海音抜き差しのスピードを上げ、ピストン運動を始めながら)

その度に、オホっ、オホって、

豚みたいな情けないマゾ声あげて、
恥ずかしくて、

情けなくて、最高に滑稽よ。

私もさっきまで、

こんな風に、ご主人様の極太ちゃんぽで、
おまんこズボズボ挟られて
虐められてたのよ？

夫婦で穴を犯されて恥ずかしいわね♡

(中・近)

ほら、こんどは

奥まで、

出し入れして

ほら、

ズッポズッポ、ズリズリ

ズッポズッポ、ズリズリ

うふふ、

おちんぼ、ビンビン来てるわね。

痛くて、

恥ずかしくて、情けない感覚が、
脳髓までビンビン来てるんでしょう？

自分の奥さんが、

他のオスにぐちゃぐちゃに

おまんこ犯された直後に、

こんな情けないマゾ責めされて、

恥ずかしい声出して勃起してる変態君は、

ほらもう、

穴からの刺激だけで

イッちゃってもいいんだよ？

(金属管が尿道を激しくズリ上げる音)

(海音・トドメを刺すように、激しい言葉責めで追い詰める)

貞操帯のせいで、

自分じゃろくにシコって射精もできないくせに、

妻に尿道責めされて、

おしっこみたいにお漏らし射精！

ほら、

出しちゃえー！出しちゃえー！出しちゃえー！

恥ずかしい寝取られ雑魚ちんぼは、

おちんぼ管攻撃の快感に負けて…

みっともなく、

お漏らしして、出ちゃえー！

いけ~~~~♡

(ト書き:ビュクつ、ビュククつーと)

(海音・滴り落ちる薄い精液を冷たく見下ろし、吐き捨てるように)

(左:密着)

あゝあ

トロトロー、ダラダラーって、

水みたいな、恥ずかしい雑魚精子、

貞操帯の隙間から出てきちゃったね。

本当に、どこまでも惨めで、

汚らしい生き物。

でも、

こういう人としての尊厳を

全部奪われるプレイが、

あなたは本当に大好きなんだもんね？

恥ずかしくて、痛くて、

それで狂うくらい気持ちいいんだもんね？

ふふっ、全部わかってるわよ？

あなたがどれだけ

救いようのない惨めな変態かってこと。

ご主人様と一緒に、一生かけて、

私がしっかり教育してあげるから、

これからも絶対、この地獄から、

逃がしてあげないんだからね。

(トラック④)

(ト書き：衣擦れの音。)

娘が冷たく見下ろすようにパパに語りかける)

(山田：中・中)

ほら、パパ。

頑張ってオナニーしなよ。

ご主人様の命令なんだからさ。

メイド服着た娘の前で粗チン出してゝ

情けないちんぽゴシゴシ、ゴシゴシ、
しっかりシコリなよ。

(ト書き：娘が自分の衣装を見せつけるように一回転する)

ねえ、私の格好、どう？

こんなスケベなメイド衣装、
ご主人様の趣味だからって
未成年の私に着せて、
でっかいちんぽで私のこと、使ったんだよ？

(やや右・近)

ふん、使ったって、

何されたかわかるでしょ？

(右・密着)

私、

さっきご主人様のでっかいちんぽで、
処女……卒業させられちゃったんだよ？

パパがちんぽちっちゃいせいで、
パパがこの世界の最底辺のゴミのせいで、
ご主人様におまんこ教育されて…

でっかいおちんぼで、
ズボ、ズボ、ズボって

出し入れされちゃったんだよ？

あーあ、オナニーの速度、
上がっちゃってる。

自分の娘のおまんこが
さっき開通させられて、
他の男に…

好き勝手に使われてるの想像して
興奮してオナニー早くなっちゃってる。

(メスガキ罵倒風)

あはは、

きつしょ。最っ低のゴミ。

自分の娘が好き勝手に使われてるのに、
ビビって何もできなくて…

でっかいちんぼ様に性搾取されてるのに、
興奮して情けないちんぼ、

自分の娘の前で

シコシコしてる最低のゴミ。

ほら、死ね、死ね、死ね！

こんな雑魚ちんぼのパパなんかいない！

こんな情けないゴミのせいで

私がひどいことさせられてるのに、

気持ちよくなってる最低のマゾパパなんて、
私じゃない！

(ト書き: パパの情けない手淫の音が響く)

ほら、しっかり見ててあげるから、
オナニーさぼっちゃダメだよ

シコシコ、シコシコ、シコシコ。

ぎーこ♡

ぎーこ♡

ぎーこ♡

娘に罵られて情けない

罵倒させられてるのに、

オナニーしながら、

興奮してる変態、マジで最低。

ほら、

パパはこういう風にされるのが
情けなくて好きなんですよ？

ご主人様に

『パパのことしっかりわからせてこい』

って命令されてるんだから、

しっかり反省させてあげるよ。

(やや右・近)

ほら、

じゃあ、次は……

そこで這いつくばって

パパが一番情けなくて

気持ちよくなれること、

してあげるから

(中・近)

ほら、パパの首を、

私の太ももでギュって締め付けてあげる♡♡

ほら、娘の太ももに、
その情けなくてキモい顔潰されて、
興奮してるの？

あはは、
ちんぽいいじる速度上がってきた♡

娘にギュって締め付けられて、
ちんぽゴシゴシの速度上がって、

ふふっ、
キモい声出して、最低だねー。

(ト書き:さらに強く太ももに力を入れる)

ほら、

ギュって…

もっと締め付けてあげる、

ねえ、ほら、

見えるでしょ？

太ももと太ももの間にある、

私のエッチな穴、

ちゃんと見なさいよ。

ほら、

何か垂れてきてるよね？

そうだよ？これ、

ご主人様に教育おセックスされた証拠。

パパのちんぽがちっちゃいから…

娘の私の狭い穴、開発させられて、

それで教育として、子宮に中出しザーメン、

たらくさん…ぴゅっぴゅ…されちゃったんだよ？

(左・密着 さきやき＋ゆっくり)

パパのちんぽが

ちっちゃいせいで。

(中・近)

(ト書き:パパが娘の股間に顔を近づけ、興奮した様子で舐め始める)

ああ、こいつ最低♡

ご主人様の教育精子が

垂れてる娘のおまんこ、

口で舐め舐めしてきて♡

チンコしごくの早くしながら、

おまんこ奉仕して♡情けな♡

自分の娘が他の男に汚されたのに、

それに興奮してクンニして、

気持ちよくなってる最低のゴミ男。

(中・密着)

ねえ、

パパってどうして

そんなに情けなくて気持ち悪いの？

ちんぽちっちゃいから？

ちんぽちっちゃいからマゾなの？

それともマゾだから、

そんなにちんぽちっちゃいま

大人になっちゃったの？

ほら、答えてよ。

(中・近)

あーあ、情けなくおまんこ

舐め舐めして♡オカズにしながら、ちんぽの速度上げて最低♡

ほら、太ももを…もつと…もつと…
ギュ〜っとして〜

こら！

自分だけ

気持ちよくなってるんじゃないよ、

この最低男。

(ト書き:娘が太ももを離し、今度は手でパパの首を絞め始める)

(やや左・近)

ほら、

このままおまんこ〜

いつまでも舐められてるの嫌だから〜

ほら、今度はパパの首を、

手でギュ〜って締め付けて、

耳元で反省させてあげる。

(左・密着)

ねえ、キモい最低男。

早く死んじゃえよ。

私、パパのちんぼ精子なんかで
生まれてこなければよかった。

ご主人様の強い精子で生まれたかった。

なのに。パパの精子で、

ママの子宮の中で孕んじやったから、

こんな風に情けないこと、

いっぱいさせられちゃうんだからね！

ほら、全部。パパのせい！

ほら、全部。パパのせい！

(ト書き:首を絞める手にさらに力を込める)

ほら、首絞めて

『やめて』『苦しい』『助けて』って言っても、
やめるわけないでしょ？

最低のゴミ人間。

あんたのせいで私の人生

全部狂っちゃったんだから、

さっさとちんぽから精子飛ばして、

情けなく負けて謝罪しろよ。

このゴミー・ゴミー！

ほら出せ！

ほら出せ！ほら出せ！

娘にキレられて、

首締められて、

それで雑魚ちんぽシコってほら出せ！

この変態ゴミー！

(ト書き:パパが限界を迎え、情けない声を漏らして射精する)

ああ〜

どっぴゅどっぴゅ精子出て、気持ち悪い〜

こんなゴミみたいな

精子たくさん出して、

マジでキモくて最低。

(やや左・近)

じゃあご主人様の命令終わったから…

終わりにするね…

あと…わたし…

パパのこと大っ嫌いだから…

二度と話しかけてこないでね。

もうパパと同じ空気吸うのも…

本当に嫌だから。

わかった？

(ト書き…冷たい足音が遠ざかっていく)

(トラック⑤)

(妻が、全裸で両手を後ろにキツく縛られ床に這いつくばる。パパを見下ろし)

(海音…中…近)

(海音…蕩けきった甘い声で、残酷に)

ほーら、

あなた、

うふふっ。

今から私…ご主人様の極太ちゃんぽで

おまんこ壊れるまで…

おセックスしちゃうわよ？

二人とも、

何も着てない裸ん坊になって、

あなたは惨めに両手を後ろに縛り付けられて…

全裸でちっちゃい粗チンを丸出しにして、

床に転がされてるの。

ほーら、

今から妻の私が、

そのシワシワの雑魚ちゃんぽ、

踏み潰してあげるわね。

(海音生足の裏でグリグリと抉りながら、蔑むように)

ほーら、

ぐーり、

ぐーり、

うふふ

何か言うことある？

デカちゃんぽの元彼、

絶対的なご主人様に…

今から自分の妻のおまんこ、

ドロドロになるまで…使われちゃうんだよ？

『やめて』とか『許して』とか『無理』とか、

ほーら、

雑魚ちゃんぽ踏みつけられてるくせに、

ご主人様に失礼なこと言わないでよ？

こーいう時は…

『どうか使ってください』でしょ？

(ト書ぎぎちちっ！と踏みつけた足にさらに体重をかける)

ほーら、

媚びろ！

媚びろ！

ぎーっ！♡

(海音・耳元で囁くように、ドの圧をかけて)

(右・密着)

『こんなちっちゃい僕のゴミちんぼの代わりに、どうかデカちんぼ様で妻のおまんこをめちゃくちゃに使ってください』

(中・近)

ほら、しっかり言いなさい？

ほら、ほら、ほら！

ちんぼびくびくさせてないで…

しっかり役目を果たしなさい

金玉まで…

しっかり蹴り潰してあげるから…

ほら、土下座したまま

しっかりとお願いしなさい？

この雑魚オス。

ほら、ぐり、ぐり、ぐり、ぐりつ。

(海音・呆れたように息を吐き、すぐに発情した声が変わって)

(中・近)

はーあ、

まともに言えないのね、あなた。

私がこれだけ説明してあげてるのに、ちっちゃいちんぼ、ビクビクビクビク、惨めに痙攣してるだけで、

『妻のおまんこ使ってください』

って言うだけのお願いが、

どうしてできないのかしら…

じゃあほら、

ご主人様と二人で、

あなたのこと…

床ごと踏み潰しながら…

あなたの頭の上で、

極上のおセックスしてあげるからね？

立ったまま、

ほらご主人様の

はち切れそうなデカちんぽが、

私の濡れそぼったまんこに、

ぐちゅんっ…って…ああ♡♡…入ってき…たっ！

(ト書き:ずちゅんっ！ばあんっ！と肉のぶつかる激しい音が響く)

(海音:狂ったような嬌声を上げ、息を乱しながら)

ああっ、ちんぽでかい、おちんぽでかいっ♡♡♡

ご主人様のデカちんぽっ、最高っ！

ほら、

あなたはただの肉のマット、

ただ踏まれてるだけ…

こんなんでつかいオスのちんぽ…

妻の奥の奥まで出し入れされてるのに…

ほら、

踏みつけられて、ご主人様と私に、

情けない足跡を体中につけられて、

ああ、

自分の上で、パンパンっ、パンパンっ♡♡

妻のおまんこ、

容赦なく使われちゃってるわよ！

ああっ、

でかいちんぽ気持ちいい！

でかいちんぽ嬉しい！

あんたのゴミみたいな粗チンなんて、
もう二度と使いたくない！

ほら、ぐりぐりっ、ぐりっ！

（海音・絶頂が近づき、言葉を乱しながら）

激しくおセックスしながら、

あんたの粗チン、

足の裏で潰してあげてるわよ？

ああ、あなたのおちんぽで

おセックスしてた過去、

ご主人様に怒られちゃってるの。

（左・中）

はいっ、

こんな粗チンなんかとは、

二度とセックスしません！

こんな種無しゴミちんぽとは

二度とセックスしないから、

ほら、だからご主人様、

私のおまんこの中で、たっぷりと中出し、

ご主人様の強くて熱いお精子、

たくさんどっぴゅどっぴゅ、

私の欲求不満な子宮に、

直接中出ししてくださいっ！

(海音:サディスティックな絶叫と共に)

ああくる、ああくるっ、ああくるっ！

ほら、あなたも私が、

おまんこのひだの裏まで

ズボズボ突かれてるの見て？

あなたのちんぼと金玉に全体重乗っけて

ほら、ペシヤンコに潰してあげるから！

自分の妻がご主人様に出しされてるとい、

私たち二人の足に踏まれながら、

しっかり骨の髄まで反省しない！

ほらくるっ、ほらくるっ、ほらくる！

3、2、1！

ほーら、極上ザーメン発射あつ！

(ト書き:びゅるるるっ！と大量の射精音)

(海音:恍惚と狂気が入り混じった声で)

ああ、

出てる、出てる、熱いのが出てるっ！

私の妻のおまんこの一番奥で、

ご主人様の大量ザーメン、

ビクンッビクンッて脈打ちながら、

怒涛の中出し射精してもらってるの！

(中・近)

(海音:呼吸を荒くしながら、汚物を見下ろすように)

ああ出た、ああいっぱい出た♡

ほら、あなたのお顔に、

ご主人様の残り汁…

しっかりぶっかけて、なすりつけて、
惨めな情けない寝取られセックス、
特等席で見届けちゃったね。

どうしたの？

粗チンふりふり、ビクビクさせて、
ここに、トドメが欲しいんだ？

じゃあほら、

四つん這いになってるあなたのその
シワシワのちんぽ、
下から、思い切り蹴り上げて……、

(低音ドS声)

ほら……

潰れ…ろっ！

(海音:底冷えのする冷たい声で、心底軽蔑して)

あーあ、『ひゃあん』って言って、

本当に気持ち悪い声、

なんでそんなんで、金玉潰されて、

水みたいな雑魚精子出しちゃってるの？

やっぱり、ちんぽちっちゃい男って、

根元から歪んでて、

生きてる価値ない最低のゴミだねー。

(海音:冷たい宣告をするように)

(中・中)

じゃあ、これからも、ご主人様と私で、
あなたのこと、

たーっぷり再教育してあげるから…

(左・密着 さきやき)

だから、これからはもう二度と…

おちんちんの大きさ、

嘘ついちゃダメだからね？

(トラック⑥)

(メイド服姿で、ご主人様の極太に跨がり、狂ったように腰を振っている)

(山田:中・近)

(娘熱に浮かされた蕩けた声で、涎を啜りながら)

(SEXアドリブ喘ぎ 10秒)

ああ♡♡ご主人様のおちんぽ

奥まで当たって、マジで気持ちいいっ！

ご主人様のお気に入りの、

このヒラヒラのメイド服で、

はち切れそうなデカちゃんぽに跨って

子宮の口にすりすり、

腰振り交尾セックスするの、

最高に気持ちいい。

(娘意地悪く、マウントを取るようなねっとりとした声で)

ほら、パッパ、

よく見える？

ご主人様の命令で、

床にしっかり正座させられて、

その惨めな粗チンを丸出しに晒して、

娘が、デカちゃんぽに

腰振りご奉仕セックスするの…

特等席でしっかり見える？

でっかいちゃんぽで、私のおまんこ、
隙間なく満たされてるの。

ああんっ♡

ほら、

ぐちゅぐちゅ鳴って、たまらないっ

(ト書き:娘がパパに向けて、冷酷に、そして甘く命令する)

(娘:パパを徹底的に見下して)

ねえ、パパ、

ご主人様からの絶対の命令だよ？

私のおまんこに、中出し、

たっぷり中出ししてくださいって、

お願いして？

『娘のおまんこに、

でかいちゃんぽからザーメンびゅっぴゅして

恵んでやってください』って

ほら、

頭ズリ付けて、しっかりお願いして？

(ズツチュー！ズツチュー！と激しいピストン)

(娘:狂喜の叫びを上げて)

ああっ！

ほら出る、ほら出る、

ほーら出るっ！

パパが娘のおまんこに

中出しお願いしながらっ

でりゅう~~~~♡♡♡

あん♡熱いザーメン、

出てる、出てる、出てるっ！

私のおまんこの中、

デカちゃんぼ様の濃いお精子に、

ドクドク満たされてるっ！

（娘：口元から精液を滴らせながら、ふとパパを見て冷たく言い放つ）

ねーえ。パパ…

なーにそれ…

自分の娘が、デカちゃんぼで

お腹パンパンになるくらいズボズボされて、

それで、このでっかいおちんちん様に、

『私のおまんこ耕してくれて

ありがとう。』

お礼してるのに…

誰も使ってくれない…

その粗チンから、透明な精子、

勝手にダラダラ漏らしてるの？

（ト書き：娘がパパに向けて中指を立て、汚物を見るような目つきで）

（娘：心底嫌悪感を込めて）

ほら、中指立ててあげる。

生きてるだけでキモいから、

早く死んじゃえよ、このゴミオス。

（娘：冷酷な女王のように）

パパ、ほら、頭を床にこすりつけて、
這いつくばって土下座して？

ちゃんとパパのこと、

骨の髄まで反省させてあげるからさ。

ほら、頭出して、

今セックスが終わって、

極上のザーメン

中出しされたばかりの娘にほら、

生足で頭を踏み躪（にじ）られて、

こんなちっちゃいチンチンなのに、

勝手に発情して射精して

本当に気持ち悪いね。

（娘：哀れむような、それでいて完全にマウントを取った声で）

パパってき……こういうのが、

たまらなくよかったんだよね？

自分の愛する妻も、

大切に育てた娘も、

圧倒的なオスに寝取られて…

それで、

自分の性癖も、惨めな人生も全て、

木っ端微塵に破壊されて、

それでしか気持ちよくなれない、

大好きなマゾオス。

でも、いいんだよ？

弱いんだから。

遺伝子レベルの雑魚なんだから。

そのまま雑魚オスらしく、
床に這いつくばってればいいの。

強さってというのは、
生まれ持った才能なの。

男はみんな、
神様にちんぼの大きさを決められて
生まれてくるんだから、

ちんぼが強くてでかくて
かっこよくて頼れる男性もいれば、
あんたみたいに粗チンで、
惨めで情けなくて、弱いオスもいる。

でも、
自分を否定しないでいいんだよ？

それが、『パパ』っていう生き物なんだから、

(娘：残酷な遊びを思いついた子供のように)

認めたら、
ほら、ご主人様の命令で、
今からもう一回、

激しいおセックスするからね？
頭、絶対に上げちゃダメだよ？

ほら、
パパの頭の上に、
私のザーメンで濡れ濡れのおまんこ、
べったりズリ付けて、
ご主人様に、

もう一度ちんぼくさいのマンヘコアピールしてよ？！

（娘：快感に声を上擦らせながら）

自分の頭の上で、

娘のおまんこが、

またご主人様のデカちゃんぽに
奥まで掘られるの。

その重みで息を詰まらせて

興奮しながら、

惨めなオナニーでも

してればいいんじゃない？

ほら、入れられる…

太いのが…デカちゃんが…

入れられる。

でかいおちんぼ様がく

娘のおまんこに、

ぐりぐり入ってくる……ああっ！

（中・近）

（娘：獣のように叫びながら）

ほら、パパの頭蓋骨、

ゴリゴリすり潰しながら、

全体重、二人でかけて、

パパのこと完全に潰しながら

おセックスしてるよ？

（娘：ピッチが上がり、狂乱状態に陥って）

ほら、潰れろ！

脳みそから潰れろ、キモオス！

でかいちんぽで、私のおまんこの形、

オスの形に作り替えられながら、

パパのこと、しっかり捻り潰してあげる！

ほら、

重いよね？苦しいよね？

私たち二人の体重が、

全部パパの首にかかっちゃってるんだから。

でも、こうやって

窒息しそうなくらい苦しいのが、

気持ちよくて情けないでしょ？

ほら、息がどうか…言っていないで、
いいからお願いして？

『もっと潰して、もっと頭潰して、
潰れたいです、

ペシャンコの肉片になりたいです』って

ほら、

血を吐きながらしっかりお願いして？

(ト書き:パンっ！パンっ！ときらに激しく腰を打たれ、パパの首の骨が軋む音がする)

(娘:絶頂に向けて声を張り上げて)

娘のおまんこ激しく出し入れされながら、

体も、人生も、文字通り、

丸ごとペシャンコに潰されちゃえ。

ほら、潰れろ！潰れろ！雑魚オス！

ああっ、おまんこ、

ひだの裏まで耕されながら、

ほら、イク、イク、イクっ！

デカちゃんぼ様に

おまんこしっかり耕してもらって、

パパの頭の上で、

極上の中出しキメてもらおうからね！

ほらイク、

イク、イク、イクっ！

デカちゃんぼ様の特濃中出しザーメン、

子宮に來ちゃうの！

（ト書き：娘が狂ったように、メスの本能剥き出しの悦びの声を上げる）

3、2、1っ！

好き、好き、好き、好きっ！

デカちゃんぼ様大好き！

毎日毎日壊れるまで犯されて、大好きいつ！

こんなちっちゃくて

粗チンなゴミパパじゃなくて、

強くて硬いちゃんぼ持ったご主人様、

大好きいつ！

ああ、

パンパン、パンパン、

パンパンパンパンっ！

デカちゃんぼで、

雑魚の娘のおまんこ、しっかり耕されて、

私イク、私イク、私イクううっ！

（娘最後の力を振り絞って腰を押し付けながら）

パパの上で、

パパに育てられた娘のおまんこで、

ご主人様のザーメン、最後の一滴まで絞り出してもらおうからっ！

ほら来る、

ほら来る、ほら来るっ！

ほら潰れろキモオス！早く死んじやえ！

娘の、おまんこの中に、

熱いザーメン、ビクビク脈打って、

大量発射されるうっっ！

いぐうううううう♡♡♡♡

（娘：うっとりとした、事後の気怠い声で）

はあ、はあ、

出てる、出てる、熱いのが出てる。

娘のちっちゃいおまんこ、

また強いちんぼの精子に、

完全に蹂躪されちゃったね。

（娘：底知れぬ見下しと、全肯定の狂気を孕んだ声で）

ああ、パパも、イっちゃったんだ。

ちんぼ、指一本触ってないくせに、

ビクビク、ビクビクして、

頭潰されながら、

大好きな寝取られ性癖刺激されて、

それで、水みたいな敗北射精汁、

惨めに漏らしたんだ。

本当に情けなくて、キモくて、最低の生き物。

（娘：パパの髪を優しく撫でるように、ねっとりと囁く）

（右：密着）

でもいいんだよ？

娘の私が、パパのその惨めさ、全部認めてあげるから。

パパは、チンチンちっちゃくて、

情けなくて、マゾで、

救いようのない最低の変態だけど、

それでも、いいじゃん。

だって、それが、『パパ』なんだから。

だからこれからもいーっぱい踏み潰されて、

その惨めでちっちゃい粗チン握りしめて、

私たちの足元で、

這いつくばって生きていつてね？

パ~~~~パ♡♡

うふふっ。